

製品名: KDM5A/Jarid1A/RBBP2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86380**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, FC, IP
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000, ICC/IF 1:500-1:2000, FC 1:200-1:1000, IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:192 kDa; Observed MW:192 kDa

抗原情報

遺伝子名	KDM5A/Jarid1A/RBBP2
別名	RBP2; RBBP2; RBBP-2
遺伝子 ID	5927
SwissProt ID	P29375
免疫原	ヒト KDM5A/Jarid1A/RBBP2 の組み換えタンパク質

背景

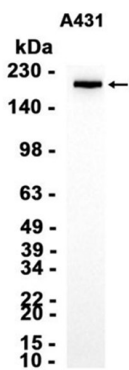
この遺伝子は、Jumonji 型 AT リッチ相互作用ドメイン 1 (JARID1) ヒストン脱メチル化酵素タンパク質ファミリーのメンバーをコー

ドしています。コードされているタンパク質は、ヒストン H3 のリジン 4 を特異的に脱メチル化することで、ヒストンコードを介して遺伝子制御に関与しています。コードされているタンパク質は、網膜芽細胞腫タンパク質を含む多くのタンパク質と相互作用し、Hox 遺伝子およびサイトカインの転写制御に関与しています。この遺伝子は腫瘍の進行に関与している可能性があります。[RefSeq 提供、2013年8月]

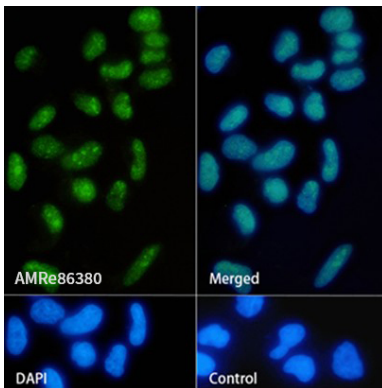
研究分野

-

画像データ



KDM5A/Jarid1A/RBBP2 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して、A431 細胞抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。



AMRe86380 で KDM5A/Jarid1A/RBBP2 を標識した HeLa 細胞の免疫蛍光分析。